

日本語における対称詞「あなた」の使用領域について

梶原 真樹子

キーワード：対称詞「あなた」、恩恵、新密度、年齢差

要旨

日本語の対称詞「あなた」の使用領域について、恩恵、親密度という観点から、日本語母語話者と日本語学習者にアンケート調査を行い、分析、考察した。その結果、目上の人から「あなた」と指し示される場合、相手から恩恵をもらっている状況下の方が、そうではない状況下よりも、感じのよさが増すことがわかった。同年代、目下の人から「あなた」と指し示される場合、相手から恩恵をもらっているかどうかに関わらず、感じがいいとは判断されないことがわかった。また、日本語学習者は、「あなた」の使用領域について、母語話者と変わらない認識結果を示した。

1. はじめに

コミュニケーションを円滑に進めるためには、人間関係を考慮した上で、その場面に適切なものを選択し、使用しなければならない。例えば、目上の人や立場が上の人に対しては、敬語を使用しなければ、聞き手は不快に感じるだろう。しかし、親しい友だちに敬語を使用すれば、かえって、親しさを欠く表現となってしまうため、不適切となり、聞き手に不快さを与えてしまう。文体だけではなく、聞き手をどのように言及するかということも、円滑なコミュニケーションのための不可欠な要素である。一般的に、会話の中で、話し手が聞き手を指すときに使用する代名詞は人称代名詞と呼ばれる。例えば、英語では、聞き手を指す場合は二人称代名詞youが使用される。

一方、日本語にもこのような人称(代)名詞が存在するのであるが、鈴木(1973)は、これを、話し手自身を言及する自称詞、聞き手を言及する対称詞、その他の第三者を言及する他称詞と分類している。さらに、対称詞の機能を呼格的用法と代名詞的用法の2つに分類している。前者は聞き手の注意を得るためや感情的に訴えるために使用される。例えば、大学の講義で先生が学生に向かって「きみ、次のページを読んで」のように言う場面がそれである。つまり、呼びかけである。後者は文中の主語や目的語としての機能を果たすものである。例えば、娘が父親に向かって「お父さんは昨日何したの?」の「お父さん」がそれにあたる。本稿では鈴木(1973)に従い、聞き手を言及する人称(代)名詞を対称

詞とする。

では、日本語では、相手によって、どのように対称詞を使い分けているのだろうか。

親族内での使い分けについて鈴木（1973）は、次のように述べている。自己を中心に、年齢が上の親族には、人称代名詞、名前で言及することはできない。それに対し、目下の親族には、これらのものが使用できる。年齢が上の親族を言及する際には、親族名称を使用する。これは、目下の親族には使用できない。鈴木（1973）によると、この法則は、親族外でも応用できるようである。例えば、会社内で、係長が課長を言及する際には、「課長」という役職名称を使用し、人称代名詞や名前は使用できない。一方、係長が平社員を言及する際には、名前もしくは人称代名詞を使用するのが一般的だと、鈴木（1973）は述べている。

2. 「あなた」の使用領域に関する先行研究

ここでは、日本語の人称代名詞のひとつである対称詞「あなた」に関する先行研究についてみていく。本稿では鈴木（1973）に従って、「あなた」は対称詞と述べることにするが、以下に示す先行研究に関しては、それぞれの述べ方に従って記すこととする。

斉藤（1999）は日本語における敬語表現に見られる二人称に関するものを英語との比較と通して分析、考察している。斉藤（1999）によると、日本語の二人称は場面によって様々に変化するが、概して、話し手は聞き手を直接指すことを恐れ、聞き手を指すための二人称「あなた」の使用をできるだけ避けようとする。特に、目上の人に対する使用はタブーとされていると斉藤（1999）は述べている。この場合の目上の人というのは、話し手と聞き手との心理的距離（どれだけ親しいか）ということに関わらないようだ。このため、家族であっても、子供が両親や兄、姉に対して「あなた」と呼びかけることはできない（斉藤1999）。特に使用制限が見られない英語の二人称 you とは異なり、日本語の二人称「あなた」の使用領域はかなり狭まれる。斉藤（1999）によると、配偶者、親しい友人や仲間、年下、目下の者に対してのみ、日本語の二人称「あなた」は使用可能となる。また、テレビのインタビュー等で見られる不特定多数に対する使用も可能となるが、この場合も、インタビューされる人が年上、特にお年寄りである場合は、使用できなくなると、斉藤（1999）は述べている。つまり、斉藤（1999）は、中立的な二人称代名詞 you を持つ英語とは異なり、日本語では上下関係を気にせずに関き手呼びかけることはできない、と主張している。

金井（2002）は聞き手を指すための表現、つまり、二人称指示のタイプを人称名詞、指示語、固有名詞、普通名詞、非明示の5つに分類し、各タイプの表現がどのような性質を持つのかについて、失礼さという観点から考察している。

まず、金井（2002）は、聞き手を指し示す表現をするかどうかという点で分類している。聞き手を言語的に指し示す場合は明示、聞き手を指す言語表現を特にしない場合は非明示となり、前者の方が失礼さを増す。

さらに、明示表現は、直示表現と記述表現に分類される（金井2002）。直示表現とは、直接的表現である人称名詞（二人称代名詞）「あなた・きみ・おまえ」、間接的表現である指示語「そちら」が含まれ、これらは、聞き手を直接指し示すという点から、失礼さが増すと金井（2002）は述べている。同様に、記述表現にも直接的表現と間接的表現があり、前者には「山田さん」のような固有名詞が含まれ、後者には役職名（例えば「課長」）のような普通名詞が含まれる。

金井（2002）によると、非明示化、記述化、間接化により、失礼さを回避することができる。逆に言えば、明示化、直示化、直接化により、親しさを示すことができるのであるが、これが失礼となるかどうかは紙一重であり、悪意ととられることもあり得る。

聞き手に対する呼びかけに関する調査を行ったものとして、眞田（1997）が挙げられる。眞田（1997）はテレビドラマ（「ロングバケーション」）における男女（瀬名秀俊と葉山南）の間での呼びかけ方法を、power（以下、力関係）とsolidarity（以下、新密度）という概念を利用して分析している。眞田（1997）によると、ドラマの中で、二人の男女が出会ったばかりの時は、二人の間柄は疎遠であり（新密度は低い）、二人の間の力関係も希薄であるため、二人はお互いを二人称代名詞「あなた（及びあんた）」で指し示している。二人が親しくなるにつれて二人の間に新密度が高まり、呼びかけ表現はお互いの名前へと変化する。ここで、着目すべき点は、ドラマの女性、葉山南は、男性、瀬名秀俊よりも年上であるため、葉山の方が瀬名のことを名前で呼びかけ始めるのが早く、瀬名は葉山のことを名前で指す前に、「おねえさん」と呼びかけていることである。これは、日本語における力関係が社会的立場ということよりも、年齢の上下関係に密接に関係していることを意味している、と眞田（1997）は主張している。二人の間の関係に亀裂が生じた時に、二人がお互いを指すのに二人称代名詞「あなた」を使用していることも注目すべき点であろう。

以上、眞田（1997）は、聞き手を呼びかける表現には新密度及び力関係（年齢という上下関係）が影響し、二人称代名詞「あなた」は見知らぬ同士が使用する際の機能を持ち、親しい間柄での使用は関係が友好ではないことを故意的に示す、と主張している。

上記の先行研究では、目上の人に対する「あなた」の使用は大変失礼になるということ述べている。しかしながら、上記の「ロングバケーション」において、年下である瀬名が年上である葉山に「あなた」と呼びかけている場面が見られる。話し手と聞き手の年齢的上下関係という要因と新密度という要因は、「あなた」の使用にどのような影響を与えているのであろうか。指し示す人が年上であっても、新密度によっては、「あなた」を使用しても不快感を与えないのであろうか。

また、これらの研究では、対話内容に着目していない。次の会話を見てみよう。

A：あなた、ハンカチ落としましたよ。

B：あ、ありがとうございます。

この会話では、BはAのハンカチを拾って「あげて」いる。つまり、AはBに恩恵を与えているのである。話し手と聞き手との間に恩恵がある場合とない場合では、「あなた」

の使用に対する「感じのよさ」も異なるのではないだろうか。

3. 本稿の目的

「2. 『あなた』の使用領域に関する先行研究」で述べたように、日本語の対称詞「あなた」を目上の人に使用することは失礼であることは明らかである。しかしながら、その他の要因については、疑問が残るものとなっている。つまり、新密度が低い相手には使用できるのかということが不明である。また、これまでの調査では、「あなた」の使用領域を考察する際、話し手が聞き手に恩恵を与えているかどうかという点は考慮されていない。そこで、本稿では、次の二点を考慮に入れ、日本語における対称詞「あなた」の使用領域について調査・分析を行い、考察していくことを目的とする。第一に、新密度が低い聞き手への「あなた」の使用が聞き手に不快感を与えるかどうか、ということである。その際、対話相手との年齢に関する上下関係（目上、目下に加え、同年代も含める）という点についても調査、分析の観点に取り入れたい。第二に、話し手が聞き手に恩恵を与えているかどうかということである。具体的には、対話において、新密度が低い相手に対する「あなた」使用について感じのよさの程度を調べ、その使用が適切であるかどうかを計る。「あなた」の使用領域を明らかにし、日本語教育の現場で応用することにより、日本語学習者は対称詞「あなた」を適切に使用することができるようになり、これは、円滑なコミュニケーションを進めるための能力習得へと結びつくだろう。また、同時に、日本語学習者が「あなた」の使用領域についてどのように認識しているかということにも着目していく。日本語学習者と日本語母語話者の使用状況を比較することによって、その相違が明らかになる。日本語教育の現場でこの相違点に焦点を当てることができれば、より効果的な指導を行うことができるだろう。

4. 調査方法

前述の目的を明らかにするため、日本語母語話者17名、日本語学習者17名にアンケート調査を行った。被験者について及び調査に用いたアンケートについての概要を以下に記す。

4. 1. 被験者

被験者のうち、日本語母語話者は、20歳から31歳までの日本語母語話者17名、日本語学習者は、20歳から28歳までの大学生17名となっている。これらの学習者の日本語学習歴については、日本語学習歴が1年6ヶ月から6年であり、日本滞在歴は全員1年6ヶ月以上である。また、17名のうち7名の被験者（日本語学習者）が日本語能力検定1級を取得しており、17名全員の被験者が日本の大学の学部での講義受講が問題なくできる程度の日本語能力を有している。国籍は、中国13名、台湾1名、カンボジア1名、ベトナム1名、マレーシア1名となっている。

4. 2. アンケートの内容

アンケートは、話し手と聞き手である被験者による初対面の対話を設定したものである。初対面であれば、話し手と聞き手である被験者との間の新密度が低いと考えられるため、このように設定した。これらの対話で、被験者が「あなた」と指し示された場合、どの程度感じがいいかを尋ねる。尋ねる尺度として、「感じが悪い」を1、「やや感じが悪い」を2、「問題ない」を3、「やや感じがいい」を4、「感じがいい」を5の5段階に分けている。対話場面は次の二つを設定する。まず、話し手が聞き手（被験者）に特に恩恵を与えていない場合であるが、話し手が電車で旅行中、聞き手（被験者）と出会い、初対面ながらに会話を始める、という状況である。その状況を話し手と聞き手（被験者）の年齢的上下関係で3つに分類する。ただ、初対面では正確な年齢は把握しにくいいため、容姿等の情報から、聞き手（被験者）が話し手のことを、①明らかに年上、②おそらく同年代、③明らかに年下と判断した場合、ということとする。次に、話し手が聞き手（被験者）に恩恵を与えている場合として、聞き手（被験者）がハンカチを落とし、それに気づいた話し手が呼びかけるという状況である。これにも、前者の場合と同様、さらに話し手と聞き手（被験者）の年齢的上下関係（①明らかに年上、②おそらく同年代、③明らかに年下）で3つに分類する。したがって、質問項目は全部で6となっている。質問項目ごとに取り入れた条件を以下に示す。

質問項目：

- (1) 話し手が聞き手（被験者）に特に恩恵を与えているというわけではない状況で被験者を「あなた」と指し示す初対面の相手が明らかに年上である場合
- (2) 話し手が聞き手（被験者）に特に恩恵を与えているというわけではない状況で被験者を「あなた」と指し示す初対面の相手がおそらく同年代である場合
- (3) 話し手が聞き手（被験者）に特に恩恵を与えているというわけではない状況で被験者を「あなた」と指し示す初対面の相手が明らかに年下である場合
- (4) 話し手が聞き手（被験者）に恩恵を与えている状況で被験者を「あなた」と指し示す初対面の相手が明らかに年上である場合
- (5) 話し手が聞き手（被験者）に恩恵を与えている状況で被験者を「あなた」と指し示す初対面の相手がおそらく同年代である場合
- (6) 話し手が聞き手（被験者）に恩恵を与えている状況で被験者を「あなた」と指し示す初対面の相手が明らかに年下である場合

5. 結果と分析

ここでは、まず、日本語母語話者によるアンケート結果を（1）対話の相手が聞き手である被験者に恩恵を与えているかどうか、（2）（1）の各状況において「あなた」を使用する相手の年代という観点から分析していく。それらの分析から新密度が低い相手との対

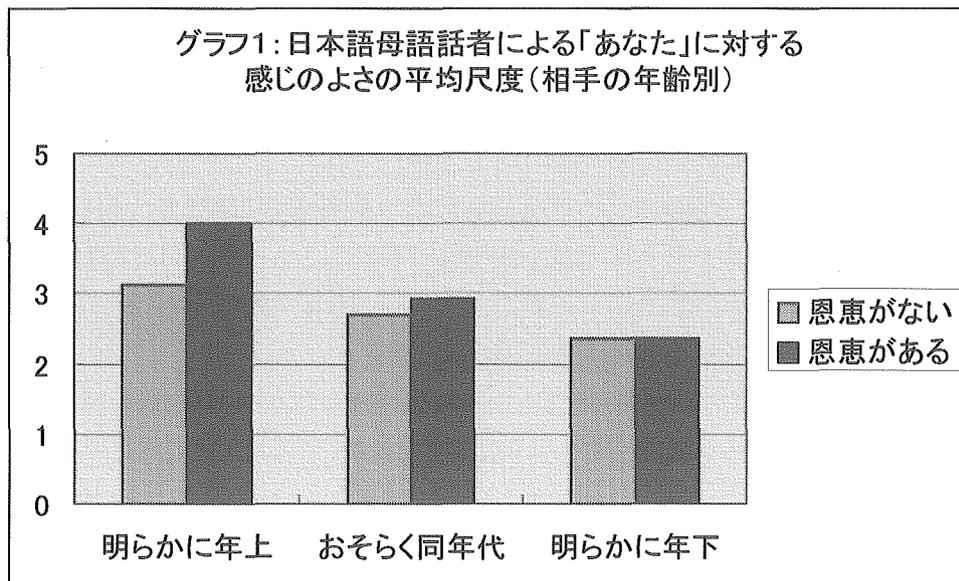
話で「あなた」が使用できるかどうかをみていく。そして、日本語母語話者によるアンケート結果と日本語学習者によるそれを比較し、日本語学習者がどの程度、「あなた」の使用領域を把握しているかを探る。

5. 1. 代名詞的用法か呼格的用法かという要因

グラフ1は、対話の相手が被験者に恩恵を与えている状況、そうではない状況、両状況において、相手が明らかに年上である場合、おそらく同年代である場合、明らかに年下である場合、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度を相手の年齢別に分類したものを示している。

グラフ1が示しているように、聞き手（被験者）が恩恵をもらっているというわけではない状況で、明らかに年上である初対面の相手から「あなた」と指し示された場合、日本語母語話者による感じのよさの平均尺度は3.12となっている。一方、明らかに年上である初対面の相手が聞き手（被験者）が恩恵に与えている状況で「あなた」を使用した場合の日本語母語話者による感じのよさの平均尺度は、4.00となっている。聞き手（被験者）が恩恵をもらっている状況とそうではない状況で「あなた」が使用された場合、日本語母語話者による感じのよさの平均尺度に相違があるかどうかをみるために、t検定を行った結果、有意な差が見られた ($p < 0.05$)。したがって、日本語母語話者は、明らかに年上である初対面の場合、恩恵をもらっている状況で使用される「あなた」の方が、そうではない状況で使用される「あなた」よりも感じがいいと判断していると言える。

また、グラフ1が示しているように、聞き手（被験者）が恩恵をもらっているというわ



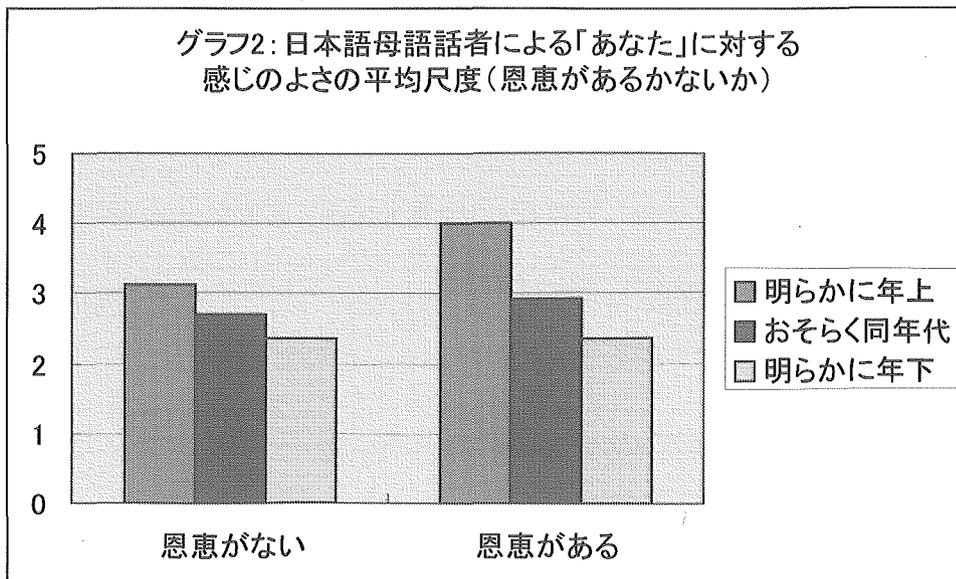
けではない状況で、おそらく同年代である初対面の相手から「あなた」と指し示された場合、日本語母語話者による感じのよさの平均尺度は2.71、恩恵をもらっている状況で「あなた」と指し示された場合の日本語母語話者による感じのよさの平均尺度は2.92となっている。上記同様、恩恵をもらっている状況とそうではない状況での日本語母語話者による感じのよさの平均尺度に相違があるかどうかをみるために、t検定を行った結果、有意な差は見られなかった ($p=0.45$)。

さらに、グラフ1が示しているように、聞き手（被験者）が恩恵をもらっているというわけではない状況で、明らかに年下である初対面の相手から「あなた」と指し示された場合、日本語母語話者による感じのよさの平均尺度、恩恵をもらっている状況で「あなた」と指し示された場合の日本語母語話者による感じのよさの平均尺度ともに、2.35となっており、t検定を行うまでもなく、恩恵をもらっている状況とそうでない状況での使用との間には、差は見られなかった。

以上の結果から、日本語母語話者は、初対面の相手から明らかに年上である場合にのみ、聞き手（被験者）は自分に対して「あなた」を使用している対話相手に恩恵をもらっている場合の方が、そうではない場合よりも、やや丁寧であると感じている。一方、初対面の相手が明らかに年下である場合とおそらく同年代である場合には、恩恵をもらっているかどうかという要因は、「あなた」の感じのよさの尺度には影響を与えないことがわかる。

5. 2. 各用法における相手の年代という要因

グラフ2は、対話の相手が被験者である聞き手に恩恵を与えている状況、そうではない状況、両状況において、自分のこと「あなた」と指し示した相手が明らかに年上、おそらく



く同年代、明らかに年下の場合で、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度を恩恵があるかどうかに着目して分類したものを示している。

グラフ2が示しているように、聞き手（被験者）が恩恵をもらっているというわけではない状況では、「あなた」と指し示した相手が明らかに年上である場合、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度は、3.12、「あなた」と指し示した相手がおそらく同年代である場合は2.71、「あなた」と指し示した相手が明らかに年下である場合2.35となっている。明らかに年上、おそらく同年代、明らかに年下の各場合での日本語母語話者による感じのよさの平均尺度に相違が見られるかを調べるために、分散分析を行った。その結果、3つの各場合の間に有意な差が見られた ($F(2, 48) = 3.19, p < 0.05$)。

同様に、グラフ2が示しているように、聞き手（被験者）が恩恵をもらっている状況では、「あなた」と指し示した相手が明らかに年上である場合、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度は、4.00、「あなた」と指し示した相手がおそらく同年代である場合は2.94、「あなた」と指し示した相手が明らかに年下である場合2.35となっている。明らかに年上、おそらく同年代、明らかに年下の各場合での日本語母語話者による感じのよさの平均尺度に相違が見られるかを調べるために、分散分析を行った。表2はその分析結果を示している。その結果、3つの各場合の間に有意な差が見られた ($F(2, 48) = 3.19, p < 0.05$)。

以上の結果から、恩恵をもらっている状況でもそうでない状況でも、「あなた」と指し示す相手の年代によって、感じのよさの尺度が異なっていることがわかる。しかし、グラフ2からも分かるように、恩恵をもらっている場合のほうが、相手の年齢別の差が大きい。

5. 3. 新密度が低い相手に対する「あなた」の使用

以上に述べてきた分析結果から、自分のことを「あなた」を使用して指し示す相手が明らかに年上の場合、聞き手（被験者）がその対話相手に恩恵をもらっている状況であっても、そうではない状況でも不快感は感じられていないことがわかる。さらに、聞き手（被験者）に恩恵がない状況での使用より恩恵がある状況での使用の方が、感じのよさは増すようである。一方、自分のことを「あなた」を使用して指し示す相手が同年代の場合、聞き手が恩恵をもらっていてもそうではなくても、感じがいいとは認識されず、問題ないかもしくはやや感じが悪いと判断される。さらに、自分のことを「あなた」を使用して指し示す相手が年下になれば、不快感が増すことがわかる。

5. 4. 日本語学習者と日本語母語話者の使用状況の比較

ここでは、「4. 4. 2. アンケートの内容」で示した(1)から(6)の各場合において、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度と日本語学習者が示した平均尺度を比較し、日本語学習者がどの程度、「あなた」の使用領域を把握しているかを探る。

上記の(1)から(6)の各場合において、日本語母語話者が判断した感じのよさの平

均尺度と日本語学習者が示した平均尺度を表1に示す。

表1：日本語母語話者と日本語学習者による感じのよさの平均尺度

| | 日本語母語話者 | 日本語学習者 |
|-----|---------|--------|
| (1) | 3.12 | 3.00 |
| (2) | 2.71 | 2.53 |
| (3) | 2.35 | 2.41 |
| (4) | 4.00 | 3.59 |
| (5) | 2.94 | 2.71 |
| (6) | 2.35 | 2.41 |

まず、聞き手（被験者）が恩恵をもらっているというわけではない状況で自分を「あなた」と指し示す初対面の相手が明らかに年上である場合、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度は、上記の通り、3.12、日本語学習者が示した平均尺度は3.00となっている。日本語母語話者が示した平均尺度と日本語学習者が示した平均尺度との間に相違が見られるかを調べるために、t検定を行った。その結果、有意な差は見られなかった（ $p=0.16$ ）。

次に、聞き手（被験者）が恩恵をもらっているというわけではない状況で自分を「あなた」と指し示す初対面の相手がおそらく同年代である場合、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度は、上記の通り、2.71、日本語学習者が示した平均尺度は2.53となっている。日本語母語話者が示した平均尺度と日本語学習者が示した平均尺度との間に相違が見られるかを調べるために、t検定を行った。その結果、有意な差は見られなかった（ $p=0.48$ ）。

同様に、聞き手（被験者）が恩恵をもらっているというわけではない状況で自分を「あなた」と指し示す初対面の相手が明らかに年下である場合、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度は、上記の通り、2.35、日本語学習者が示した平均尺度は2.41となっている。日本語母語話者が示した平均尺度と日本語学習者が示した平均尺度との間に相違が見られるかを調べるために、t検定を行った。その結果、有意な差は見られなかった（ $p=0.83$ ）。

聞き手（被験者）が恩恵をもらっている状況で自分を「あなた」と指し示す初対面の相手が明らかに年上である場合には、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度は、上記の通り、4.00、日本語学習者が示した平均尺度は3.59となっている。日本語母語話者が示した平均尺度と日本語学習者が示した平均尺度との間に相違が見られるかを調べるために、t検定を行った。その結果、有意な差は見られなかった（ $p=0.20$ ）。

また、聞き手（被験者）が恩恵をもらっている状況で自分を「あなた」と指し示す初対面の相手がおそらく同年代である場合は、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度は、上記の通り、2.94、日本語学習者が示した平均尺度は2.71となっている。日本語母語話者が示した平均尺度と日本語学習者が示した平均尺度との間に相違が見られるかを調

べるために、t検定を行った。その結果、有意な差は見られなかった ($p=0.47$)。

最後に、聞き手（被験者）が恩恵をもらっている状況で自分を「あなた」と指し示す初対面の相手が明らかに年下である場合には、日本語母語話者が判断した感じのよさの平均尺度は、上記の通り、2.35、日本語学習者が示した平均尺度は2.41となっている。日本語母語話者が示した平均尺度と日本語学習者が示した平均尺度との間に相違が見られるかを調べるために、t検定を行った。その結果、有意な差は見られなかった ($p=0.85$)。

以上の結果から、日本語学習者は、「あなた」の使用領域を、日本語母語話者と同じように認識しているということが言えるだろう。

6. 結論

以上、本稿では、日本語の対称詞のひとつである「あなた」の使用領域について、分析、考察してきた。具体的には、アンケート調査を行い、新密度が低い相手との対話における「あなた」の使用領域を明らかにしようと試みた。

自分のことを「あなた」を使用して指し示す相手が、初対面で明らかに年上である場合、日本語母語話者は、聞き手が話し手に恩恵をもらっている状況での使用のほうがそうではない状況での使用よりも、感じがよいと認識することがわかった。一方、自分のことを「あなた」を使用して指し示す相手が、おそらく同年代である場合及び明らかに年上である場合には、聞き手が恩恵をもらっていてもそうでなくても、感じのよさには相違はなく、やや不快に感じるか、問題ないと認識することがわかった。つまり、聞き手が恩恵をもらっているかという要因は、聞き手に対して「あなた」を使用する相手である話し手が、明らかに年上である場合にのみ、影響を与えるということが明らかになったと言えるだろう。

また、聞き手が恩恵をもらっている状況、そうではない状況、両状況において、自分のことを「あなた」を用いて指し示す相手が明らかに年上の場合、おそらく同年代の場合、明らかに年下の場合で、日本語母語話者による感じのよさの平均尺度に相違が見られ、自分のことを「あなた」を用いて指し示す相手の年代が下がれば下がるほど、感じのよさの程度も低下するということが明らかになった。

これらの結果から、日本語の対称詞「あなた」は、年下の相手には、相手に恩恵を与えている場合であれば、問題なく使用できることが明らかである。同年代の相手に対しては、問題ないかもしくはやや不快感を与える。年上の相手になれば、その使用は相手に不快感を与えてしまう。

さらに、本稿では、日本語学習者と日本語母語話者のアンケート結果を比較し、日本語学習者が対称詞「あなた」の使用領域をどのように認識しているのかについても、調査、分析した。その結果、日本語学習者と日本語母語話者による「あなた」に対する感じのよさの平均尺度には、どの場合においても相違は見られなかった。したがって、日本語学習者は、日本語母語話者と同じように「あなた」の使用領域を認識しているということが明らかになったと言える。今後は、様々な日本語能力、日本語学習歴の学習者の習得状況も

調査の対象にしていきたいと考える。

7. 終わりに

コミュニケーションを円滑に進めていくためには、言語形式が文法的に正しい、言葉の発音が正しいというだけでは、不可能である。自分の今置かれている場面に即した言語形式を選択していかなければならない。それが言語能力というものであろう。

日本語教育の現場で学習者が日本語能力を効果的に身につけるには、教師は、常に、言語形式だけでなく、その適切な使用方法、どのような場面で、どのような人間関係の相手に使用できるのかということに注意しなければならないだろう。また、言葉は時代とともに変化していく。教師として、今、どのような言葉がどのような状況下で使用されているのかを把握し、「言葉へのアンテナ」を常に張り巡らせておくように心がけておきたい。

参考文献

- 金井 勇人 2002 「失礼さという観点から見た二人称指示の体系」
『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第48輯 第3分冊
- 斉藤紀代子 1999 「二人称代名詞と敬意表現—日英語対照研究」
『梅花女子大学文学部紀要』第33号
- 眞田 亮子 1997 「人を表す言葉—日本語における二人称の研究」
『目白学園女子短期大学研究紀要』第34号
- 鈴木 孝夫 1973 『ことばと文化』岩波新書

